

最初から諦めないこと。  
できることを頑張れば  
必ず道が開ける

## Role Model 14

## 伊勢桃子

熊本大学附属病院  
耳鼻咽喉科頭頸部外科助教

医学部 → 医局入局（医師） → 大学院（博士課程） → 医員 → 助教

**Profile** いせ・ももこ 1997年に熊本県立熊本高校を卒業後、佐賀医科大学医学部医学科に入学。2003年に同大学を卒業後、同年熊本大学耳鼻咽喉科頭頸部外科に入局。2006年に熊本大学医学部大学院（博士課程）に進学し、内耳の再生をテーマに研究をする。2010年に大学院卒業後、5年の大学病院勤務を経て、2015年に熊本大学附属病院耳鼻咽喉科頭頸部外科助教に着任。

### 研究は手探りからのスタート。 失敗を重ねて、希望をつかむ

医師になりたいと考え始めたのは小学校低学年の頃からでした。当時の文集にもそのように書いた記憶があります。「人の役に立てる職業」ということで選択したのですが、当時の私はそれ以外の職種をほとんど知らなかったため、半ば思い込みのような形で目指していました。

張り切って入学した医学部でしたが、いざ入ってしまうと、勉強はほどほどに部活動やアルバイト、友人たちとの近隣への旅行などを謳歌していました。それでも、病棟実習が始まると、それまでの机上の学習とは異なり、「現場で学べる」という興味深さや緊張感から、ぐいぐいと臨床の世界へ引き込まれていきました。

耳鼻咽喉科を選択した理由は、耳・鼻・口腔・咽喉頭・甲状腺と多彩な領域を扱うことができ、内科的および外科的双方の側面から治療を行うことができるという、専門性の高さに惹かれたからです。入局して15年以上経過した現在も、まだまだ学ぶことのほうが多い毎日を送っています。

大学院での研究内容は『内耳の再生について』で

した。あまりにも壮大なテーマで、さらに当時の医局では内耳の基礎研究の立ち上げの時期であったため、手探りでのスタートでした。指導医と研究のプロトコルを組み立てては実験し、けれど結果がでない、といったことを何度となく繰り返していましたが、何とか後半でほんのわずかな結果を得ることができました。根気強く指導してくださった先生方にも本当に感謝しています。大学院では、仮説を立て、それを実証する実験を計画し、予測した結果を得る、という物事を考える上で最も重要な「考え方の構築」を学ぶことができました。

### ライフステージが変化しても フルタイム勤務ができるのは 周囲と家族のおかげ

大学院を卒業して、再び臨床の世界へ戻った後は、あっという間でした。結婚・出産と、女性として現在の仕事を続けていく上でターニングポイントとなるイベントを経験しましたが、医局の先生方そして家族の理解と協力もあり、何とかフルタイムでの勤務をこなせています。

年に数回参加する学会では、自己の発表だけでなく、講演を聴き、他大学の先生方と話をすることで様々な

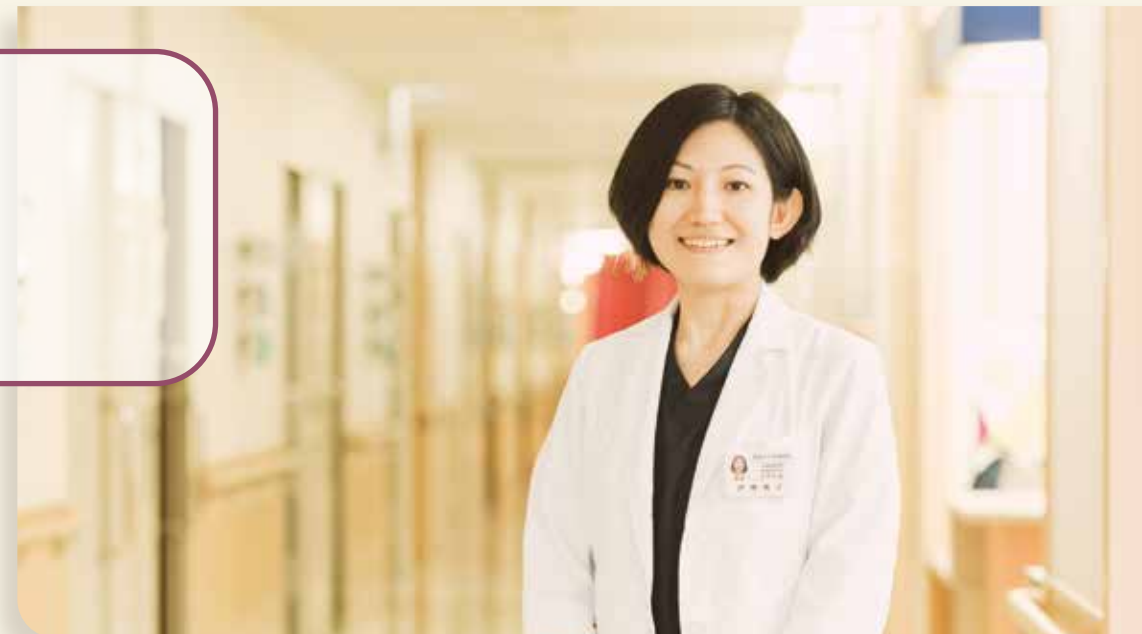
刺激を受け、日常の繁雑により下がりつつあるモチベーションをまた高い位置まで上げることができています。

育児休暇から復帰後に、耳科手術の術者としての手技を学ばせていただくチャンスを医局から頂きました。そのことが、今や私の原動力となっています。このチャンスを無駄にしないよう頑張ることが、現在の私の目標です。

### できることを頑張ると、 できなかったことも可能に

一生懸命働いた後に家族と過ごす休日は、私にとって一番待ち遠しい時間となっています。育児をしながらのフルタイム勤務は、当初は困難に思いましたが、助教という立場上、実際に厳しい意見を頂くこともありますが、「できないことを考えるより、できることを頑張る!」をモットーに、周囲に助けられながら、自分の役割を果たしております。

将来の選択に悩んでいる学生に伝えたいこと。それは「最初からできないと諦めるのではなく、まずはそこに飛び込んでみて一考すること」の大事さです。「できない」と思っていたことも、行動すると意外とできることも多いはずだと思っています。



耳鼻咽喉科の先生方とは日々の情報共有が不可欠

### 10年後の 目標は？

臨床家としてまだまだ学ぶべくことがたくさんあるので、できる限り多くのことを吸収し、どんな環境でも自分のやるべきことを見失わない医師になっていきたいです。

国内海外問わず美術館めぐりでレベルアップ!